

# Fiorand

# Fiorano SOA プラットフォーム コンポーネント フロー実行ログ の使用、設定方法

対象バージョン: 2007 SP7 および 9.0.0



# はじめに

このガイドブックは、コンポーネント フローの実行中に記録されるログについて、その設定方法および表示方法を例題を用いて説 明するものです。

例題は、ガイドブック『Fiorano オーケストレータによるビジネス プロセス構築の概要 (基礎編)』で構築方法を説明したデータ ベース間の同期を取るコンポーネント フロー (DB\_Sync) を用いています。DB\_Sync コンポーネント フローを作成し、本ガイド ブックの説明に従って実際に操作されることをお薦めします。

このガイドブックは、以下のガイドブックで説明されている知識を有していることを前提としています。

- Fiorano SOA プラットフォームの起動方法
- Fiorano SOA プラットフォームのアーキテクチャ概要
- Fiorano オーケストレータによるビジネス プロセス構築の概要 (基礎編)

#### 目次

| 1 ログの設定                   |    |
|---------------------------|----|
| 1.1 ログのレベル                | 4  |
| 1.2 コンポーネントのログ設定          | 5  |
| 1.3 ログ ファイル               | 5  |
| 1.3.1 設定項目                | 5  |
| 1.3.2 ログファイルのロケーション       |    |
| 1.4 ログ レベルとログ モジュール       | 7  |
| 2. Studio におけるログの表示       | 9  |
| 2.1 事前準備                  | 9  |
| 2.2 ログ ウィンドウの表示           | 10 |
| 2.3 ログの解析                 |    |
| 2.4 ログ記録の削除               |    |
| 2.5 ログ記録のエクスポート           |    |
| 3. エラー、障害の検出について          |    |
| 4. Event Manager によるログの表示 | 17 |
| 4.1 Event Manager の起動     | 17 |
| 4.2 ログの表示                 |    |
| 5. Web Console によるログの表示   |    |
| 5.1 Web Console の起動       |    |
| 5.2 ログの表示                 |    |

# Fiorano

| 6. ログ ファイルのハンドリング用 API |  |
|------------------------|--|
| 6.1 API の一覧            |  |
| 6.2 サンプル プログラム         |  |



# 1 ログの設定

Fiorano SAO プラットフォームでは、ログを次のカテゴリに分けて記録しています。

- システム イベント ログ
- アクセス ログ (セキュリティ イベント)
- ▶ コンポーネント フロー実行ログ

本ガイド ブックは、コンポーネント フローの実行ログについて、その設定方法と表示方法について説明します。 システム イベント ログおよびアクセス ログについては、製品マニュアルを参照してください。

### 1.1 ログのレベル

Fiorano SOA プラットフォームでは、コンポーネント プロセス内の個々のコンポーネント単位でログのレベルが設定できます。 ログ レベルとはログを記録するレベル (詳細度)を指し、下の表に示すログ レベルが用意されています。

ログ レベルが上がるほど詳細な情報がログされることになります。上位のレベルは、下位のレベルを包含しています。つまり、レベル 3 の Info では、レベル 1 ~ 2 のエラー、ワーニングのログも記録されることになります。

|   | レベル     | 説明                                 |  |
|---|---------|------------------------------------|--|
| 0 | Off     | まったくログしない                          |  |
| 1 | Severe  | フェイタル エラーなど重大なエラーの発生時のみログする        |  |
| 2 | Warning | エラー、ワーニングをログする                     |  |
| 3 | Info    | エラー、ワーニングに加え、重要なシステム メッセージをログする    |  |
| 4 | Config  | 上記のものに加え、システム構成に関するエラー (例えば、JDBC ド |  |
|   |         | ライバーにアクセスできないなど) が発生した場合にログする      |  |
|   |         | このレベルでログされるエラーは、コンポーネントのプロパティ設定と   |  |
|   |         | 実環境の相違に起因するものがほとんどである              |  |
| 5 | Fine    | コンポーネントの動作過程をログする                  |  |
|   |         | (例えば、「ライセンスを確認した」、「スケジューラを起動した」など) |  |
| 6 | Finer   | さらに詳細な動作過程をログする                    |  |
| 7 | Finest  | コンポーネントの動作過程を細大もらさずログする            |  |
| 8 | All     | すべてのエラー、ワーニング、システム メッセージ、イベントの発生を  |  |
|   |         | ログする                               |  |



# 1.2 コンポーネントのログ設定

ログ の設定は、コンポーネント毎に、コンポーネントのプロパティ ウィンドウで行います。 ログの設定は、次の 2 つのカテゴリに分かれています。

- ログ ファイルに関する設定 (Log Manager のパラメータ)
- ログレベルの設定



# 1.3 ログ ファイル

### 1.3.1 設定項目

ファイル サイズ、ファイル数、日付形式以外の項目は、デフォルト設定を変更しないことをお薦めします。

| プロパティ項目名          | デフォルト値         | 説明                                    |
|-------------------|----------------|---------------------------------------|
| Туре              | File Handler   | 次のハンドラーも選択できます                        |
|                   | (ログをファイルに書き出しま | Console Handler (ESB サーバーの実行マシンにウィンドウ |
|                   | す)             | 表示されます)                               |
|                   |                | Custom Handler (ユーザー独自のハンドラーを登録できま    |
|                   |                | <b>す</b> )                            |
| Directory         | logs           | ログ ファイルのディレクトリ名                       |
|                   |                | (詳細は下記のログ ファイルの場所を参照してください)           |
| Maximum File Size | 50000 Bytes    | ログ ファイルの最大サイズ                         |

# Fiorano

| Number of log files  | 4                   | ログ ファイルの数                     |  |
|----------------------|---------------------|-------------------------------|--|
|                      |                     | ログ データが上記の最大サイズを超えると、ログは新たなフ  |  |
|                      |                     | ァイルに書き出されます。ログのファイル数がこの項目で指定  |  |
|                      |                     | した値を超えると、最初の古いログ ファイルに上書きします。 |  |
| Include Time-Stamp   | はい                  | ログにログ時刻」を付加する否か               |  |
| Fiorano.jmslog2.def. | MM.dd.yyyy          | 日付形式を指定します。                   |  |
| DefaultFormatter.    | (デフォルト設定では、         | 例) yyyy.MM.dd 2008/05/17      |  |
| dateformat           | 05/17/2008 の形式で記録され |                               |  |
| (日付形式の指定)            | ます)                 |                               |  |

ログ記録はファイルにアペンド (追加) されながら書き出されます。ファイルがここで指定したサイズを超えると、新しいファイルを 生成し、そこにログ記録が追加されていきます。ファイルの数がここで指定した値を越える場合には、最初のファイルに戻って書き 出されます。その際、最初のファイルに記録されていたログは消去されます。



### 1.3.2 ログファイルのロケーション

コンポーネントのログ ファイルは、ピア サーバー実行マシンの次の場所に作成されます。

<インストール ディレクトリ> /runtimedata/PeerServers/<プロファイル名>/FPS¥run/logs



**インストール ディレクトリ (Windows 版のデフォルトは、**C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoSOAXXXXXX) XXXXXX は、バージョン番号を示しています。

runtimedata : コンポーネント フローの実行に必要なデータおよび実行中に保存されるデータやログなどの保存場所 プロファイル名 : ピア サーバーを起動する際に指定しているプロファイル名。プロファイルとはサーバーのコンフィグレーシ ョン パラメータの設定を指し、設定値はプロファイル名と同名のファイルに保存されています。デフォルトのプロファイル名は



"Profile1" です。ピア サーバーを Profile1 とは別のプロファイルを指定して起動している場合には、そのプロファイ ル名と同じ名前のディレクトリ下にログ ファイルが作成されます。

logs : ログ ファイルが保存される場所。コンポーネント フロー毎にディレクトリが作成され、その下にコンポーネント毎の ディレクトリが作成される。

ログは、その種類に応じて次の2つに分けて保存されます。

out : 通常のシステム ログが保存されます。(ファイル名の例 : DB\_SYNC\_ビデオ 99.out.0)

err : エラーに関するログのみが保存されます。(ファイル名の例 : DB\_SYNC\_ビデオ 99.err.0)

ファイル名の最後にある数字は、ファイルの順番を指しています。0 のファイルがいっぱいになると、次に 1 のファイルが 作成されます。0  $\rightarrow$  1  $\rightarrow$  2  $\rightarrow$  3 とファイルが作成されていき、3 のファイルがいっぱいになると、0 のファイルにかき だされます。

# 1.4 ログ レベルとログ モジュール

ログ レベルの設定は、コンポーネントが使用しているログ モジュールの単位で指定します。コンポーネントの処理内容によって 使用しているログ モジュールの種類は異なっています。例えば、DB コンポーネントでは、下のキャプチャ画面で示すログ モジ ュールが使用されており、それぞれデフォルトのログ レベルが設定されています。

| V |
|---|
|   |

デフォルトのログ レベル

| - | Log Module Instances   |        |
|---|--|--------|
|   | All Modules  | <異なる値> |
|   | com.fiorano.bc.trgateway   | Severe |
|   | ERR_HANDLER  | Severe |
|   | com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnectionFactory | Severe |
|   | com.fiorano.adapter.db.DBServiceDefaultErrorHandler                | Severe |
|   | com.fiorano.adapter.jca.db.DBServiceErrorHandlerImpl               | Severe |
|   | OUT_HANDLER  | Info   |
|   | com.fiorano.adapter.jca.db.cci.DBInteraction                       | Severe |

コンポーネントの種類を問わず、デフォルトのログ レベルの設定は、OUT\_HANDLER ログ モジュールが "Info" に、その他の ログ モジュールが "Severe" に設定されています。OUT\_HANDLER ログ モジュールは、出力するメッセージ (データ) の生 成に関わるログを書き出す場合に使用しているもので、製品にバンドルされているほとんどすべてのプリビルト コンポーネントが 使用しています。

デフォルト設定の意味は、次のコンポーネントに渡すデータを出力する部分については詳細なログを記録し、コンポーネント内部 処理については重大なエラーについてのみログを記録するというものです。この設定は、本番稼動に適した設定です。コンポーネ ントフローの開発中には、より詳細なログが書き出されるよう、すべてのログ モジュールについてログ レベルの設定を変更しま す。

#### ログ レベルの変更

ログ レベルの変更は、プロパティ ウィンドウで行います。ログ モジュール毎に変更してもいいのですが、[All Module]の項 目を変更すればすべてのモジュールを一括して変更できます。



| Log Module Instances   |         |          |
|--|---------|----------|
| All Modules  | Off     | -        |
| com.fiorano.bc.trgateway   | Off     |          |
| ERR_HANDLER  | Severe  |          |
| com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnectionFactory | Warning |          |
| com.fiorano.adapter.db.DBServiceDefaultErrorHandler                | Info    |          |
| com.fiorano.adapter.jca.db.DBServiceErrorHandlerImpl               | Config  |          |
| OUT_HANDLER  | Fine    |          |
| com.fiorano.adapter.jca.db.cci.DBInteraction                       | Finer   |          |
| Runtime Arguments  | Finest  | <u> </u> |

#### 次のログ レベルを推奨します。

コンポーネント フローの開発中 : Info

ユーザー独自のコンポーネントを開発している場合:Finest

上記のログ レベルでデバッグに必要な情報を得られますが、より詳細なログ記録が必要な場合には、"All"を指定します。



# 2. Studio におけるログの表示

前述のログ ファイルを直接テキスト エディタなどで表示させてもよいのですが、ログの表示ツールも用意されています。 この章では、Studio のオーケストレータ イーゼルからログを表示する方法について説明します (後述するように Event Manager、Web Console によるログの閲覧方法もあります)。

このガイド ブックでは、下図のコンポーネント フローを例題として使用します。



このコンポーネント フローは、ガイドブック『Fiorano オーケストレータによるビジネス プロセス構築の概要 (基礎編)』でその 構築方法を説明しています。

# 2.1 事前準備

事前の準備として、下記の設定を行い、エラーが起こる状況としておきます。

 [ビデオ] コンポーネントのデフォルト設定を変更し、ログ レベルを "Info" にします。すべてのログ モジュールで、"Info" レベルのログが記録されるようにします。

| Ξ | Log Module Instances   |         |   |
|---|--|---------|---|
|   | All Modules  | Off     | - |
|   | com.fiorano.bc.trgateway   | Off     | * |
|   | ERR_HANDLER  | Severe  |   |
|   | com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnectionFactory | Warning |   |
|   | com.fiorano.adapter.db.DBServiceDefaultErrorHandler                | Info    |   |
|   | com.fiorano.adapter.jca.db.DBServiceErrorHandlerImpl               | Config  |   |
|   | OUT_HANDLER  | Fine .  |   |
|   | com.fiorano.adapter.jca.db.cci.DBInteraction                       | Finer   |   |
| - | Runtime Arguments  | Finest  | Ŧ |

2. エラー状況を創出し、ログが記録されるようにします。

フローの先頭にある [ビデオ] コンポーネントは、一定間隔 (例 20 秒) で Mckoi データベースにアクセスし、SELCET ク エリを実行するようスケジュールされています。

エラー状況を作り出すためには、Mckoi データベースを起動させないで(停止したまま) コンポーネント フローを実行します。 Mckoi データベースにアクセスできないため、Video コンポーネントがデータベースに接続しようとした時点でエラーが発生 します。

上記の状況で、コンポーネント フローを実行します。



# 2.2 ログ ウィンドウの表示

ログを表示させるためには、任意のコンポーネントを右クリックし、メニューから [View Logs...] を選択します。



イーゼル上の任意の箇所を右クリックし、メニューから [View Logs...] を選択しても同じように、ログ ウィンドウが表示されます。

どちらの方法でもかまいません。



ログ記録は、コンポーネント フローが実行されている状態でも、停止している状態でも見ることができます。当然のことながら、停止している状態では、ログ ファイルに残されている過去のログだけとなります。コンポーネント フローを実行中であれば、次に説明するログ ウィンドウの [Refresh] ボタンで最新のログ記録を表示できます。

メニューから [View Log...] を選択すると、次のキャプチャ画面のように、ログ ウィンドウが現れます。



| <u>に</u> Logs - ビデオ [DB:4.0]   | ×        |
|--|----------|
| Service Instance<br>の<br>の<br>して<br>して<br>して<br>して<br>して<br>して<br>して | <b>T</b> |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 0] ->-username                              | <b>_</b> |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 1] ->anonymous                              |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 2] ->-serviceversion                        |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 3] ->4.0                                    |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 4] ->-password                              |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 5] ->anonymous                              |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 6] ->-transportprotocol                     |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 7] ->TCP                                    |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 8] ->-url                                   |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 9] ->http://yoda:1867                       |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 10] ->-serviceGUID                          |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 11] ->DB                                    |          |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 12] ->-instancename                         | -        |
| 00,01,0000 · TMFO · A[ 10] \例结二 - 经                                  | •        |
|  |          |
| Clear Export Refresh   | Close    |

ログ記録は、通常のシステム メッセージを記録する out ログ ファイルと、エラー メッセージを記録する err ログ ファイルに分 類されています。

ログ ウィンドウもこれに合わせて、[Output Log] と [Error Log] の 2 つのウィンドウを持っています。タブを選択すること によって、ウィンドウを切り替えることができます。

ログ ウィンドウに表示されるログ記録は、コンポーネント毎に分かれています。

プルダウン メニューからコンポーネントを選択することで、表示するコンポーネントを切り替えることができます。



#### 2.3 ログの解析

次のキャプチャ画面は、[ビデオ] コンポーネントの Output Log のものです。 INFO レベルのログが記録されていることが確認できます。最初の数行は、コンポーネントの起動に関するログです。これは INFO レベルで記録されるもので、デフォルト設定の Sever や Warning のレベルでは記録されないログです。



| [] Logs - ビデオ [DB:4.0]  | ×  |
|---|--|
| Service Instance <mark>@ピデオ</mark> ・                              | Number of Records 100                          |
| Output Log Error Log  |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 0] ->-username                           |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 1] ->anonymous                           | -  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[2] ->-serviceversion ログレベル                |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 3] >4.0                                  | 4  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 4] ->-password                           |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 5] ->anonymous                           |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 6] ->-transportprotocol                  |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 7] ->TCP                                 |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 8] -≻-url                                |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 9] ->http://yoda:1867                    |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 10] ->-serviceGUID                       |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 11] ->DB                                 |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 12] ->-instancename                      |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 13] ->繝薙ョ繧ェ                              |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 14] ->-componentrepopath                 |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 15] ->C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoS0 | )A2007SP6¥runtimedata¥PeerServers <sup>2</sup> |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 16] ->-isinmemory                        |  |
| 09:01:2008 : INFO : Arg[ 17] ->false                              |  |
| •   | Þ  |
| Clear 🛛 Export Refresh 🔽  | Close  |

文字化けを起こしているのは、コンポーネント名です。コンポーネントの実行インスタンスの名前が日本語になっていると、このロ グ表示ツールでは文字化けを起こしてしまいます。実際のログファイルには、日本語のコンポーネント名が正しく記録されていま す。(次期バージョンで、修正する予定でいます。)

ログを下方向に順にみていくと、次の画面のようにエラーの発生が記録されていることがわかります。

| <mark>夏</mark> Logs - ビデオ [DB:4.0]   | <u>×</u>                          |
|--|-----------------------------------|
| Service Instance 🧬ビデオ 💌  | Number of Records 100             |
| Output Log Error Log   |                                   |
| 09:01:2008 : INFO : Number of polls : -1.  |                                   |
| 09/01/2008 00:45:54 752 : INFO : xsd_root_element_name   |                                   |
| 09:01:2008 : INFO : Couldn't Find Matching Connection. Returning NULL                              | -                                 |
| 09:01:2008 : INFO : creating_physical_connection エラーのログ記録  |                                   |
| 09/01/2008 00:45:54 872 : INFO : Task com.fiorano.bc.trat (INFO レベル)                               | pef361 scheduled.                 |
| 09/01/2008 00:45:54 872 : INFO : TrGateway started successfully.                                   | -                                 |
| 09:01:2008 : INFO : Creating database compection   |                                   |
| 09/01/2008 00:45:57 096 : INFO : Error while executing interaction.                                |                                   |
| fiorano.esb.adapter.jca.spi.ESBResourceAdapterInternalException: Creating physica                  | l connection to EIS., error code: |
| at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBEISConnection.init(DBEISConnectio                     | on.java:242)                      |
| at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnection.createEISConnec                     | ction(DBManagedConnection.java:81 |
| at fiorano.esb.adapter.jca.spi.outbound.AbstractESBManagedConnection. <init>(Al</init>             | bstractESBManagedConnection.java: |
| at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnection. <init>(DBManagedConnection.</init> | edConnection.java:49)             |
| at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnectionFactory.createMa                     | anagedConnection(DBManagedConnect |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.MCFConnectionInterceptor.getConnect                      | ion(MCFConnectionInterceptor.java |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.SinglePoolMatchAllConnectionInterce                      | ptor.internalGetConnection(Single |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.AbstractSinglePoolConnectionInterce                      | ptor.getConnection(AbstractSingle |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.ConnectionHandleInterceptor.getConn                      | ection(ConnectionHandleIntercepto |
|  |                                   |
| Clear V Export   Refresh V   | Close                             |



この前後のログは、次の意味を持っています。(重要と思われ部分は、黄色のマーカーで示しています。)

(DB 接続を開始)

09:01:2008 : INFO : Creating database connection... (DB への接続開始)

09/01/2008 00:46:17 836 : INFO : Error while executing interaction.

[Error Log] ウィンドウは、エラー ログの内容を表示します。エラー ログでは、同一のエラー情報が WARNIG レベルで記録されます。

| 🚺 Logs - ビデオ [DB:4.0]  | ×   |
|--|---|
| Service Instance 🧬ビデオ  | Number of Records 100   |
| Output Log Error Log   |   |
| 09:01:2008 : WARNING : Connection failed. Reason:: Unable to crea<br>09/01/2008 00:45:57 116 : WARNING : Error while executing interac | te a new database connection! : Connection refuse   |
| fiorano.esb.adapter.jca.spi.ESBResourceAdapterInternalException:<br>at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBEISConnection.in      | Creating physical connection to EIS., error code:<br>it(DBEISConnection.java:242)                         |
| at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnectic<br>at fiorano.esh.adapter.jca.spi.outbound.AbstractESBManagedCon         | n.createEISConnection(DBManagedConnection.java:81   |
| at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnectic  | n. <init>(DBManagedConnection.java:49)</init>   |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.MCFcouldBelWind  | eptor, getConnection(MCFConnectionInterceptor.java  |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.SinglePool   | onnectionInterceptor.InternatectionConnection(Single<br>onnectionInterceptor.getConnection(AbstractSingle |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.ConnectionHandieInt<br>at org.apache.geronimo.connector.outbound.TCCLInterceptor.get         | erceptor.getConnection(ConnectionHandleIntercepto<br>Connection(TCCLInterceptor.java:39)                  |
| at org.apache.geronimo.connector.outbound.ConnectionTrackingI<br>at org.apache.geronimo.connector.outbound.AbstractConnectionM         | nterceptor.getConnection(ConnectionTrackingInterc<br>anager.allocateConnection(AbstractConnectionManag    |
| at fiorano.esb.adapter.jca.cm.ESBConnectionManager.allocateCo<br>at fiorano.esb.adapter.jca.cci.BaseESBConnectionFactory.getCo         | nnection(ESBConnectionManager.java:163)<br>nnection(BaseESBConnectionFactory.java:158)                    |
| at fiorano.esb.adapter.jca.cci.BaseESBConnectionFactory.getCo  | nnection(BaseESBConnectionFactory.java:118)   |
| Clear 🔽 Export Refresh 🔽   | Close   |



# 2.4 ログ記録の削除

ログ記録を削除するには、[Clear] ボタンをクリックします。Output Log および Error Log の両ログ記録を削除できます。一 方の記録だけを削除したい場合には、ボタンの右にあるプルダウン メニューから選択してください。

# 2.5 ログ記録のエクスポート

ログ記録をファイルに書き出すには、[Export] ボタンをクリックしてください。該当するコンポーネントのログ ファイルを ZIP (圧縮) ファイルとして書き出すことができます。デフォルトのディレクトリは、C:¥Documents and Settings¥[ユーザー] と なっていますが、任意の場所を選択できます。

| <b>E]</b> 保存        |  | × |
|---------------------|--|---|
| 保存:                 | iaoshima 🦻 🎾 🎟 📰   |   |
| して<br>最近使ったファイ<br>ル | Contention in the second secon |   |
| でき<br>デスクトップ        | → Application Data<br>☆ お気に入り<br>← Local Settings<br>← My Documents  |   |
| ک<br>۲۲ ۴キ۱メント      | <ul> <li>□ NetHood</li> <li>□ PrintHood</li> <li>□ 最近使ったファイル</li> <li>□ SendTo</li> </ul>  |   |
| ידע בארב אד         | <ul> <li>□ WINDOWS</li> <li>□ スタート メニュー</li> <li>□ デスクトップ</li> </ul>   |   |
| र्म २७४७-७          | ファイル名:     DB SYNC ビデオ.zip     保存       ファイルタイブ:     Zip Files (*.zip)     取消し   |   |

# Fiorano

# 3. エラー、障害の検出について

コンポーネントでエラーが発生した場合の処理は、CPS (カスタム プロパティ シート) で設定することになっています。[ビデオ] コンポーネントのエラー発生時の処理は、デフォルト設定となっています。

デフォルト設定におけるデータベース接続のエラー発生時の処理 エラー ポートにエラー メッセージを送信する 接続の再試行は行わない コンポーネントは停止しない

この設定により、[ビデオ] コンポーネントはデータベースへの接続に失敗しても、再接続を試行せずにそのまま動作し続けます。 つまり、スケジューラによって 20 秒後にキックされるまで、待機します。そして、ログ記録が示すように、通常の処理としてデータ ベースに接続を試みます。しかし、データベースを起動していないため、前回と同じようにエラーが発生します。

データベースの負荷状態が高くなっていたり、多数のクライアントからの接続が多数重なっていたりすると、一時的にデータベース に接続できないことがあります。このため、コンポーネントを停止せずに、ある時間を置いた後に接続を試みることは、理にかなっ た処理方法といえるでしょう。

このことから、デフォルトのログ レベルの設定では、データベース接続のエラー発生はほとんど記録されないようになっています。 SP6 からログ内容を改善し、デフォルト設定のログ レベルでも以下のように接続エラーを記録するようになりました。

|   | ×   |
|---|---|
| Service Instance 🧬 ビデオ  | Number of Records 100   |
| Output Log Error Log  |   |
| <ul> <li>The fiorano-soa2007.lic license for the product I<br/>The fiorano-soa2007.lic license is valid and its<br/>09:01:2008 : INFO : Couldn't Find Matching Connection<br/>09:01:2008 : INFO : creating_physical_connection<br/>09:01:2008 : INFO : Creating database connection<br/>09:01:2008 : INFO : Couldn't Find Matching Connection<br/>09:01:2008 : INFO : Creating_physical_connection<br/>09:01:2008 : INFO : creating_physical_connection<br/>09:01:2008 : INFO : Creating database connection</li> </ul> | B ver 4x is valid and its details are Type = Eval<br>details are Type = Eval, Days left = 24, Local<br>on. Returning NULL.<br>on. Returning NULL. |
| Clear V Export Refresh V  | Close   |
| /// Logs - ドデオ [DB:4.0]   |   |
| Service Instance 🕜 ビデオ  | Number of Records 100   |
| Output Log Error Log  |   |
|   |   |
| 09:01:2008 : WARNING : Connection failed. Reason::<br>09:01:2008 : WARNING : Connection failed. Reason::  | Unable to create a new database connection! : (   |
| 09:01:2008 : WARNING : Connection failed. Reason::<br>09:01:2008 : WARNING : Connection failed. Reason::  | Unable to create a new database connection! : (<br>Unable to create a new database connection! : (  |



エラーや障害の検出には、次の2 つが考えられます。

- ▶ ログを常に監視する
- ▶ エラー ポートから送信されるエラー メッセージを受け取る

ログ記録を常に監視することで障害の発生を知ることができますが、例題のコンポーネント フローのようにエラー メッセージをシ ステム管理者が受け取れるように構築しておくことで、より効率的にエラーの発生を知ることができるようになります。

エラーが発生した場合には、ログ レベルの設定とは関係なく、必ずエラー メッセージがエラー ポートから送信されます。このエ ラー メッセージを受信しシステム管理者に通知する処理をコンポーネント フローに組み込んでおくことが、たいへん重要な意味 を持ちます。運用面から考えると、ログ レベルを上げて詳細な記録を取ることは、ディスク スペースの消費やコンポーネント フ ローの処理パフォーマンスの低下を招きます。安定した動作が見込める本番稼動では、ログ記録を最小限に押さえ、エラー ポー トから送信されるエラー メッセージをシステム管理者が確実に受け取れるフローを構築することが効果的な運用方法です。発生 したエラーや障害の解析や解消方法の検討時に、ログレベルを上げ、詳細な記録を取るようにします。

イベントのアラートについて

ESB サーバーやピア サーバーの起動、停止などのシステム イベントは、ESB サーバーの runtime ディレクトリに記録されます。

同時に、システム管理者にメールで通知するアラート機能が用意されています。 アラート通知は、システム イベントのカテゴリ単位で登録できます。

システム イベントのカテゴリ

- ESB サーバーのシステム イベント (起動、停止)
- ▶ ピア サーバーのシステム イベント (起動、停止)
- ▶ セキュリティ関連のシステム イベント (コンポーネント フローやコンポーネントの変更などのアクセス)
- ▶ コンポーネント フローのシステム イベント (フローの起動、停止など)
- ▶ サービス コンポーネントのシステム イベント (コンポーネントの起動、停止など)

アラートの登録は、Fiorano Web Console で行うことができます。詳細は、製品マニュアルを参照してください。



# 4. Event Manager によるログの表示

#### 4.1 Event Manager の起動

Event Manager は、スクリプト evst.bat (Unix / Linux 版の場合は、evst.sh) によって起動できます。

場所

(インストール ディレクトリ)/esb/tools/evst/bin

Windows 版では、スタート メニューからも起動できます。

| 🖮 プログラム(P)              | 🕨 📷 Fiorano         | 🕨 🛅 Fiorano SOA 2007 Platform SP6 🕨 🛅 | Fiorano Servers 🔹 🕨   |                              |
|-------------------------|---------------------|---------------------------------------|-----------------------|------------------------------|
| 🙆 最近使ったファイル( <u>D</u> ) | 🔸 🛅 Mozilla Firefox | × 🖬                                   | Fiorano Tools 🔹 🕨     | ዿ Fiorano Deployment Manager |
| 🚱 設定(S)                 | 🕨 🏉 iexplore.exe    | e                                     | Fiorano Web Console 👘 | 🚼 Fiorano Event Manager      |
|                         | 🕨 🛅 アクセサリ           | ▶                                     | ×                     | 🛃 Fiorano Studio             |
|                         | 🚮 秀丸                |                                       |                       | ×                            |

Event Manager が起動すると、次のログイン画面が表示されます。

| 🚼 Fiorano Event Mana     | ager 🔰                  | < |
|--------------------------|-------------------------|---|
| Ente                     | rprise Server Login     |   |
| Enterprise Server URL    | sp_tcp://localhost:1947 |   |
| Password                 |                         |   |
| (Default Login: admin/pa | asswd) 🗖 Remember Me    |   |
| Proxy Settings           | Ok Cancel               |   |

Enterprise Sever URL

ログインする ESB サーバー (Enterprise サーバー)の URL を指定します。

デフォルト値として次の値があらかじめ設定されています。

tsp\_tcp://localhost:1947

デフォルトの ESB サーバー コンフィグレーションでは、各ツールは ポート 1947 に TCP プロトコルによって接続するよう設 定されています。ESB サーバーのコンフィグレーション設定を変更している場合は、それに合わせて URL を変更します。 また、別マシン上の ESB サーバーにログインする場合には、localhost ではなく、ESB サーバーの IP アドレス (またはリモー ト ホスト名) を指定します。

#### User Name, Password

登録されているユーザー名とパスワードを指定します。 初期状態で設定されているユーザー admin には、すべての権限が与えられています。パスワードは passwd です。



Proxy Settings

プロキシ サーバーを介して ESB サーバーに接続する場合には、[Proxy Settings ...] ボタンをクリックします。表示されるダイ アログ ボックスに、プロキシ サーバーへの接続情報を入力します。

情報を入力したら、[Ok] ボタンをクリックし、最初のログイン画面に戻ります。

| Service Servic | ettings   | ×      |
|--|-----------|--------|
| 🔽 Use pro  | xy server |        |
| Address  |           |        |
| Port   |           | 80 🛨   |
| User Name  |           |        |
| Password   |           |        |
|  |           | Canad  |
|  |           | Cancel |

#### [注意]

ESB サーバーが起動していないと、Event manager にはログインできませんので、注意してください。

また、コンポーネント フローのログを表示するためには、ピア サーバーが起動されている必要があります。

# 4.2 ログの表示

ログインに成功すると、次のようにリポジトリに保存されているコンポーネントフロー (Event process)の一覧が表示されます。



一覧から DB\_Sync を選択し、ツリー表示を展開します。Business Components を選択すると、コンポーネント フロー内で 使用されているコンポーネントが右側のペインに表示されます。 [ビデオ] コンポーネントを右クリックしてプルダウン メニューから [View Logs ...] を選択すると、ログ ウィンドウが表示されます。

[ビデオ] コンポーネントをダブルクリックしても、ログ ウィンドウを表示させることができます。



| 👷 Bu  | Business Component Logs   |  |  |  |  |  |  |  |  |
|-------|---|--|--|--|--|--|--|--|--|
| Event | Process: DB_SYnc Business Component: ビデオ  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Out L | -og Err Log   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 31    | - The fiorano-soa2007.lic license is valid and its details are Type = Eval, Days left = 2       |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 32    | 09:01:2008 : INFO : Scheduling enabled : true.  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 33    | 09:01:2008 : INFO : Start Time in Date format : Mon Sep 01 13:28:39 JST 2008.                   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 34    | 09:01:2008 : INFO : Start Time : 1220243319000.   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 35    | 09:01:2008 : INFO : Start Time after applying offset : 1220243319000.                           |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 36    | 09:01:2008 : INFO : Poll Interval : 20000.  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 37    | 09:01:2008 : INFO : Number of polls : -1.   |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 38    | 09/01/2008 13:28:53 533 : INFO : xsd_root_element_name  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 39    | 09/01/2008 13:28:53 583 : INFO : Task com.fiorano.bc.trgateway.tr.jms.JMSTimerTask@8f9a32       |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 40    | 09/01/2008 13:28:53 583 : INFO : TrGateway started successfully.                                |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 41    | 09:01:2008 : INFO : Couldn't Find Matching Connection. Returning NULL.                          |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 42    | 09:01:2008 : INFO : creating_physical_connection  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 43    | 09:01:2008 : INFO : Creating database connection  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 44    | 09/01/2008 13:28:55 806 : INFO : Error while executing interaction.                             |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 45    | fiorano.esb.adapter.jca.spi.ESBResourceAdapterInternalException: Creating physical connect      |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 46    | at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBEISConnection.init(DBEISConnection.j∉              |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 47    | at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnection.createEISConnection              |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 48    | at fiorano.esb.adapter.jca.spi.outbound.AbstractESBManagedConnection. <init>(Abstration)</init> |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 49    | at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnection. <init>(DBManagedCon</init>      |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 50    | at com.fiorano.adapter.jca.db.spi.outbound.DBManagedConnectionFactory.createManage              |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 51    | at org.apache.geronimo.connector.outbound.MCFConnectionInterceptor.getConnection(I              |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 52    | at org.apache.geronimo.connector.outbound.SinglePoolMatchAllConnectionInterceptor.              |  |  |  |  |  |  |  |  |
| ◄     | at org.anache.geronimo.connector.outhound.AhstractSinglePoolConnectionIntercentor               |  |  |  |  |  |  |  |  |
| Last  | 10 kb of Logs Refresh Clear Close   |  |  |  |  |  |  |  |  |

ログ ウィンドウの操作方法は、前章で説明した Studio のログ ウィンドウと同じです。

Event Manager では、コンポーネントのログの他に、システム イベントとセキュリティ イベントも閲覧することができます。 システム イベントおよびセキュリティ イベントは、左側のツリー表示の最下段にあります。

| 🚼 Fiorano Event Manager                  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
|--|---|----------------------|------------------------|----|-----|-------------------------------|----------|--------|--|--|
| Actions View Help                        |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
|  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| ⊞ <b>⊷t</b> ≌ WorkList_Manager           | * | Туре                 | Date                   | ID |     | Status                        |          |        |  |  |
| 표··· 여읍 CompositeBC Demo                 |   | Information          | 9 02, 2008 11:31:08 午前 |    | 401 | SERVICE PROVIDER STARTED      |          |        |  |  |
| 표···여읍 RetailAutomation_SportingGoods    |   | <li>Information</li> | 9 02, 2008 20:24:21 午後 |    | 401 | SERVICE PROVIDER STARTED      |          |        |  |  |
| 🗄 여명 Retail_television2                  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| ⊞ <b>નહ</b> Busines_flow2                |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| 표···여업 DBQuery                           |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| 표···여읍 Bond Trading                      |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| E  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| ⊕ ••• •• •• •• •• •• •• •• •• •• •• •• • |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
|  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| terende WorkList Example                 |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| etail Television                         |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| ± ⊶러블 Purchasing System                  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
| ±•Hā Work_list                           |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
|  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
|  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
|  |   |                      |                        |    |     |                               |          |        |  |  |
|  |   |                      |                        |    |     |                               |          | _      |  |  |
| By System Events                         | - | Showing 1-2 of 2     | System Events          |    |     | 14                            | 1 of 1   | ► H.   |  |  |
| Security Events                          | - |                      |                        |    | -1  |                               |          |        |  |  |
|  |   |                      | 💕 admin                |    |     | Connected to tsp_tcp://yoda:1 | 947 disc | onnect |  |  |

右ペインの項目の1つを選択し、詳細を表示させます(右クリックして [Properties]を選択するか、ダブルクリックします)。



| 🚼 Event   | Properties   | ×      |
|---|--|--------|
| Event   |  |        |
| Event ID<br>Date:<br>Type:<br>Scope:<br>Status: | 401<br>Tue Sep 02 20:24:21 JST 2008<br>Information<br>TIFOSI<br>SERVICE_PROVIDER_STARTED | €<br>€ |
| Descript  | ion:   |        |
| SERVI<br>TSP_TO                                 | DE PROVIDER STARTED. FESNAME: FES. FES URL:<br>DP://YODA:1947                            |        |
| Data:   | Text     C Bytes   |        |
|   |  |        |
|   |  | Close  |

ESB サーバー (FES) のサービス プロバイダーが起動された日時が、システム イベントとして記録されていることが分かりま す。サービス プロバイダーとは、ESB サーバーの各サービス (機能) をツールや Peer サーバーに提供する機能のことで、ほ とんど ESB サーバーと同義です。

セキュリティ イベントでは、次の詳細表示画面が示すように、コンポーネント フローの編集 (edit) リクエストがユーザー admin から出され、これを許可したことがわかります。

| Event Pr   | operties   | ×  |
|--|--|--|
| Event  |  |  |
| Event ID:<br>Date:<br>Type:<br>Scope:<br>Status:<br>User Name: | 1511<br>Tue Sep 02 11:40:42 JST 2008<br>Information<br>TIFOSI<br>APPLICATION_EDIT_REQUEST<br>admin | <ul> <li>↓</li> <li>↓</li> <li>↓</li> <li>↓</li> </ul> |
| APPLICA<br>SUCCCES   | TION EDIT¥PROPERTY CHANGE REQUEST<br>SSFUL FOR APPLICATION: DB_SYNC, USER: ADMIN                   |  |
| Data: @  | ) Text C Bytes   |  |
|  |  | Close  |



# 5. Web Console によるログの表示

## 5.1 Web Console の起動

Web Console は、web ブラウザ ベースの監視ツールです。

Web Console を起動するには、任意の web ブラウザで、次の URL を指定します。
http://localhost:1980/ (ESB サーバー同じマシン上でブラウザを起動する場合)
http://<ESB サーバーの URL (IP アドレス)>:1980/ (別マシンのブラウザを使用する場合)

| 😂 Welcome to Fiorano web Container – Mozilla Firefox |      |              |     |                |                    |      |        |     |  |
|--|------|--------------|-----|----------------|--------------------|------|--------|-----|--|
| ファイル(E)  | 編集(  | ( <u>E</u> ) | 表示⊙ | 履歴( <u>S</u> ) | ブックマーク( <u>B</u> ) | ツール① | ヘルプ(円) |     |  |
| < > •  | C    | ×            | ☆ [ | http://k       | ocalhost:1980/     |      |        | ☆ • |  |
|  | 0 50 |              |     |                |                    |      |        |     |  |

Windows 版では、スタート メニューから起動することもできます。この場合、ブラウザはシステムに登録されている規定のブラウザが使用されます。

| ſ | ■ プログラム( <u>P</u> ) ・ | m   | Fiorano         | • | 📅 Fiorano SOA 2007 Platform SP6 | •  | ) Fiorano Servers 🔹 🕨                  |
|---|-----------------------|-----|-----------------|---|---------------------------------|----|--|
|   | み 最近使ったファイル(D)        | •   | Mozilla Firefox | • | *                               | 6  | ) Fiorano Tools 🔹 🕨                    |
| E | ▶ 設定(S) □             | 6   | iexplore.exe    | 1 |                                 | 6  | Fiorano Web Console                    |
|   | ▶ 検索(©) ।             | · 🛅 | アクセサリ           | • |                                 | Ū. | Uninstall FioranoSOA 2007 Platform SP6 |
|   | シ ヘルブとサポート(H)         | *   | 秀丸              |   |                                 |    | *                                      |

ブラウザで最初に表示されるのは、ESB サーバーに組み込まれている Web コンテナー (jetty) へのアクセス ページです。

| Welcome to Fiorano Web Container |  |  |
|----------------------------------|--|--|
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
|                                  |  |  |
| ocess http<br>eploy Event        |  |  |
| 0                                |  |  |

[1. ESB Webconsole] をクリックし、Web Console を起動します。

次のキャプチャ画面のように、ログイン 画面が表示されます。



# Username : Please provide authorized username and password Password : Submit

© Fiorano Software Inc. All rights reserved.

デフォルトで設定されているユーザー名 (admin)、パスワード (passwd) を入力し、ログインします。

# 5.2 ログの表示

ログインに成功すると、次の画面が表示されます。

| Fīi   | JPAND Even           | ts Application | s ServerStatus Document Tracking Web Services Resource Search        |  |  |  |  |  |  |
|---|----------------------|----------------|--|--|--|--|--|--|--|
| Latest   Archives   SMTP Alert Registration   Configure |                      |                |  |  |  |  |  |  |  |
| Event Type: Select                                      |                      |                |  |  |  |  |  |  |  |
| Visible Events Count : 20                               |                      |                |  |  |  |  |  |  |  |
| <u>Alert</u>  | <u>Time</u>          | Source         | Description  |  |  |  |  |  |  |
|   | 09-02-2008, 20:29:21 | fps            | Fiorano Peer Server Available in the Network.                        |  |  |  |  |  |  |
|   | 09-02-2008, 20:28:43 | fps            | Fiorano Peer Server Reconnected                                      |  |  |  |  |  |  |
|   | 09-02-2008, 20:28:43 | fps            | Fiorano Peer Server Available in the Network.                        |  |  |  |  |  |  |
|   | 09-02-2008, 20:24:21 | FES            | Service Provider Started. FESName: fes. FES URL: tsp_tcp://yoda:1947 |  |  |  |  |  |  |
|   |                      |                |  |  |  |  |  |  |  |

最初に表示されるのは、システム イベントの画面です。

コンポーネント フローのログを表示するには、[Application] タブをクリックします。

Application タブでは、リポジトリにあるすべてのコンポーネント フローの状況が表示されます。 下段にあるページ ボタンで目的のコンポーネント フローが表示されているページに移動します。



| FIOPANO Events         | Applications Ser | verStatus Document Tra | cking Web Service | us<br>Resource Search <u>n</u> |
|------------------------|------------------|------------------------|-------------------|--------------------------------|
| Application Name       | <u>Status</u>    | <u>Category</u>        | Nodes             | Actions                        |
| REVENUE CONTROL PACKET | NotRunning       | [Samples.Financial]    | fps               | • •                            |
| DB SYNC                | Running          | [TEST]                 | fps               | S 🔹 0                          |
| ORDER ENTRY            | DB Sync の状:      | nples.Inventory]       | fps               | • •                            |
| CSV XML DB             |                  | [ユーザー]                 | fps               | • •                            |
| WORK LIST              | NotRunning       | [TEST]                 | fps               | • •                            |
| SALESFORCE INTEGRATION | NotRunning       | [Samples.SalesForce]   | fps               | • •                            |
| DB SYNC ERRLISTNER     | NotRunning       | [TEST]                 | fps               | • •                            |
| SIMPLECHAT             | NotRunning       | [Samples]              | fps               | • •                            |
|                        | ページ ボタン          |                        |                   |                                |
|                        |                  |                        |                   |                                |
| << < 4/4 >>>           | ·                | ·                      |                   |                                |

DB\_Sync の表示をみると、次の状態にあることがわかります。

Status : Running (実行中)

Category : (TEST) (リポジトリ上で格納されているディレクトリ名)

Node : fps (稼動している ピア サーバーの名前)

Actions Constant (このコンポーネント フローに対して実行できるアクション)

Action の欄に表示されているアイコンは、左から「再起動」、「停止」、「ログの表示」、となっています。 停止状態にあるコンポーネント フローの場合には、「起動」と「ログの表示」のアクションが実行できます。

DB\_SYNC フローをクリックして選択状態にした上でこのページを下方にスクロールすると、DB\_SYNC の各コンポーネントの状態が表示されます。

| ServiceInstanceName | ServiceGUID | Version | <u>Status</u> | Node | LaunchType       | Actio |
|---------------------|-------------|---------|---------------|------|------------------|-------|
| FileWriter1         | FileWriter  | 4.0     | Running       | fps  | Separate process | ٩     |
| ビデオ                 | DB          | 4.0     | Running       | fps  | Separate process |       |
| 5MTP1               | SMTP        | 4.0     | Running       | fps  | Separate process | ٩     |
| (slt2               | Xslt        | 4.0     | Running       | fps  | Separate process |       |
| (slt1               | Xslt        | 4.0     | Running       | fps  | Separate process | ٩     |
| <u>ご</u> デオ99       | DB          | 4.0     | Running       | fps  | Separate process |       |
|                     |             |         |               |      |                  |       |
|                     |             |         |               |      |                  |       |
|                     |             |         |               |      |                  |       |
|                     |             |         |               |      |                  |       |

Action 欄からログの表示をクリックすると、次のようにログ表示画面が表示されます。



| Logs - FileWriter1   |  |  |  |  |  |  |  |
|--|--|--|--|--|--|--|--|
| Service Instance FileWriter1 INumber Of Records 10   |  |  |  |  |  |  |  |
| Output Logs Err SMTP1  |  |  |  |  |  |  |  |
| - The fiorano-soa2 XsHz s valid and its details are Type = Eval, Days left = 37, Locale specific =<br>false, CPU based = ≝≓∄∄99 ed = false |  |  |  |  |  |  |  |
| 09:02:2008 : INFO : Scheduling enabled : false.<br>09/02/2008 21:33:55 384 : INFO : TrGateway started successfully.                        |  |  |  |  |  |  |  |
| U3:U2:2008 : INFO : Arg[ 0] ->-username<br>09:02:2008 : INFO : Arg[ 1] ->anonymous<br>09:09:09:09 : INFO : Arg[ 2] ->anonymous             |  |  |  |  |  |  |  |
| 03:02:2008 : INFO : Arg[ 2] ->-serviceversion<br>09:02:2008 : INFO : Arg[ 3] ->4.0<br>09:02:2008 : INFO : Arg[ 4] ->-serviceversion        |  |  |  |  |  |  |  |
| 03:02:2008 : INFO : Arg[ 5] ->anonymous<br>09:02:2008 : INFO : Arg[ 6] ->-transportprotocol  |  |  |  |  |  |  |  |
| 09:02:2008 : INFO : Arg[ 7] ->TCP  |  |  |  |  |  |  |  |

コンポーネントをプルダウン メニューから選択し、コンポーネントのログを表示させます。ページ下段にあるコンポーネント一覧か らログ表示をクリックしても、コンポーネントのログを表示させることができます。



# 6. ログ ファイルのハンドリング用 API

Fiorano SOA プラとフォームは、ログ ファイルを処理するための API を提供しています。

# 6.1 API の一覧

青い太字で示した箇所には、ユーザー任意の値を指定します。

#### ESB サーバーのシステム イベント ログ

FioranoServiceProvider.getTESLastErrLogs(int numberOfLines)

Err ログ ファイルの最後から指定行数のログ記録を取り出す

FioranoServiceProvider.getTESLastOutLogs(int numberOfLines)

Out ログ ファイルの最後から指定行数のログ記録を取り出す

#### ピア サーバーのシステム イベント ログ

FioranoServiceProvider.getFPSManager().getTPSLastOutLogs(int noOfLines,

String **fpsName**)

指定したピア サーバーの Err ログ ファイルの最後から指定行数のログ記録を取り出す

FioranoServiceProvider.getFPSManager().getTPSLastErrLogs(int noOfLines,

#### String **fpsName**)

指定したピア サーバーの Out ログ ファイルの最後から指定行数のログ記録を取り出す

#### コンポーネントのログ

FioranoServiceProvider.getApplicationController().getLastOutTrace(int numberOfLines, String serviceName, String appGUID, float appVersion)

#### 指定したコンポーネントの Out ログ ファイルの最後から指定行数のログ記録を取りだす

ServiceName : コンポーネント名

appGUID : コンポーネント フローの名前 (GUID)

appVersion : コンポーネント フローのバージョン番号

FioranoServiceProvider.getApplicationController().getLastErrorTrace(int numberOfLines,

String serviceName, String appGUID, float appVersion)

#### 指定したコンポーネントの Out ログ ファイルの最後から指定行数のログ記録を取りだす

ServiceName : コンポーネント名

appGUID : コンポーネント フローの名前 (GUID)

appVersion : コンポーネント フローのバージョン番号



# 6.2 サンプル プログラム

次のプログラム ソースは、ログ記録を取り出すプログラムの例です。 青い太字で示している値は、ログを取り出すコンポーネント フローの GUID とコンポーネント名、ピア サーバーの名前、ユーザ 一名とパスワードで、ユーザー独自の値を設定します。

```
import com.fiorano.esb.rtl.server.FioranoServiceProviderFactory;
import com.fiorano.esb.rtl.server.FioranoServiceProvider;
import javax.naming.Context;
import javax.naming.InitialContext;
import java.util.Hashtable;
public class RTLTest {
   private static String serviceInstanceName = "chat1";
   private static String appName = "SIMPLECHAT";
   private static String peerName = "fps";
   public static void main(String[] args) throws Exception {
      Hashtable env = new Hashtable();
      env.put(Context.SECURITY PRINCIPAL, "admin");
      env.put(Context.SECURITY CREDENTIALS, "passwd");
      env.put(Context.PROVIDER URL, "tsp tcp://localhost:1947");
      env.put(Context.INITIAL CONTEXT FACTORY,
"fiorano.tifosi.jndi.InitialContextFactory");
      InitialContext ic = new InitialContext(env);
      System.out.println("Created InitialContext :: " + ic);
      FioranoServiceProviderFactory fspf = (FioranoServiceProviderFactory)
ic.lookup("TifosiServiceProvider");
      FioranoServiceProvider fsp = fspf.createServiceProvider("admin", "passwd");
      System.out.println("Enterprise Server Output Logs : ");
      System.out.println(fsp.getTESLastOutLogs(100) + "¥n¥n");
      System.out.println("Enterprise Server Error Logs : ");
```



```
System.out.println(fsp.getTESLastErrLogs(100) + "¥n¥n");
```

try {

```
System.out.println("Peer Output Logs for " + peerName + " : ");
```

```
System.out.println(fsp.getFPSManager().getTPSLastErrLogs(100, peerName) +
```

"¥n¥n");

```
System.out.println("Peer Error Logs for " + peerName + " : ");
```

System.out.println(fsp.getFPSManager().getTPSLastOutLogs(100, peerName) +

"¥n¥n");

```
} catch (fiorano.tifosi.common.TifosiException tifosiException) {
```

System.out.println("Failed to get logs for peer server " + peerName + ". Check if peer server " + peerName + " is running");

}

```
System.out.println("Service Output logs for " + serviceInstanceName + " from " + appName
+ " : ");
```

```
System.out.println(fsp.getApplicationController().getLastOutTrace(100,
serviceInstanceName, appName, 1.0f) + "¥n¥n");
```

```
System.out.println("Service Error logs for " + serviceInstanceName + " from " + appName
+ " : ");
```

```
System.out.println(fsp.getApplicationController().getLastErrorTrace(100,
serviceInstanceName, appName, 1.0f) + "¥n¥n");
```

}

}